

火災は初期消火が重要です！！いざというときに使えるよう日頃から点検・整備をしましょう！



下記の項目にそって外観をチェック！！

※ 9 指示圧力計 は蓄圧式消火器にのみついています。

1 本体容器

A 点検方法

目視によって確認する。

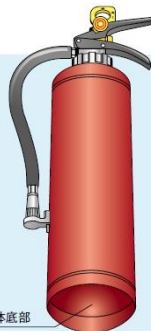
B 判定方法

消火薬剤の漏れ・変形・損傷・著しい腐食などがないこと。

※溶接部が損傷しているもの、又は著しい変形があるもので機能上支障のおそれのあるもの、著しく腐食してサビが剥離するようなものは廃棄すること。

◆チェックのポイント

- ①サビが層状に剥離するように腐食しているものは、速やかに廃棄処分してください。
- ②孔食の発見は困難でも事故の原因になりやすいので入念にチェックしてください。また、あばた状の孔食を起こしているものは、速やかに廃棄処分してください。
- ③口金部（キャップ）の変形・ネジ山のつぶれなど、機能上支障をきたすおそれのあるものは廃棄処分してください。



本体底部

6 キャップ

A 点検方法

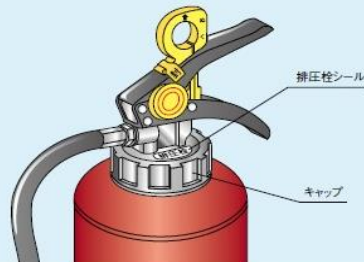
目視及び手で締め付けて確認する。

B 判定方法

- a 強度上支障のある変形や損傷などがないこと。
- b 容器に緊結されていること。

◆チェックのポイント

- ①損傷・腐食・ひびなどがないかをチェックしてください。
- ②確実に容器に緊結されているかをチェックしてください。
- ③排圧栓が付いているものは、シールが破れたり、外れていないかをチェックしてください。シールの外れているものは、排圧栓にゆるみがないかをチェックしてください。



※ネジ山のすれゆるみなどは特に入念にチェックしてください。

8 ノズル、ホーン及びノズル栓

A 点検方法

目視及び手で締め付けて確認する。

B 判定方法

- a 変形・損傷・老朽化などがなく、内部に詰まりがないこと。
- b ホースに緊結されていること。
- c ノズル栓が外れていないこと。

※1 異物による詰まりは清掃すること。
 ※2 消火薬剤の漏れや固化による詰まりのあるものは、消火薬剤量を点検すること。
 ※3 ノズル栓の外れているものは取り付け直すこと。

◆チェックのポイント

ノズルとホーンの間には封板のあるものは、封板の破れや締め付け部のゆるみがないかをチェックしてください。

2 安全栓の封

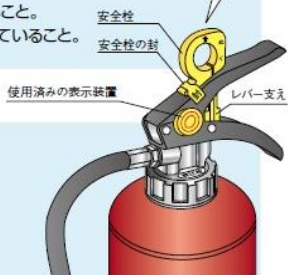
A 点検方法

目視によって確認する。

B 判定方法

- a 損傷又は脱落がないこと。
- b 確実に取り付けられていること。

◎安全栓の点検時には、上レバーに力がからないように注意してください。



4 使用済みの表示装置

A 点検方法

目視によって確認する。

B 判定方法

変形・損傷・脱落がなく、作動していないこと。

3 安全栓

A 点検方法

目視によって確認する。

B 判定方法

- a 安全栓が外れていないこと。
- b 操作に支障がある変形や損傷がないこと。
- c 確実に装着されていること。

◆チェックのポイント(安全栓の封・安全栓)

- ①安全栓がレバー支えを立てた状態で確実にセットされているかをチェックしてください。
- ②点検で異常が認められたときは、消火器の内部及び機能の点検を行い、特に安全栓の「セットと解除」がスムーズにできるかを数回繰り返してテストしてください。
- ③不良部品を発見したときは、速やかに部品を交換してください。

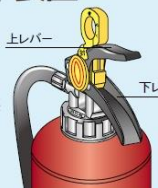
5 押し金具及びレバーなどの操作装置

A 点検方法

目視によって確認する。

B 判定方法

変形や損傷などがなく、確実にセットされていること。



◆チェックのポイント

- ①上下のレバーの内側部分にサビ、腐食及び変形などがないかを入念にチェックしてください。
- ②消火器内部及び機能の点検をするときは、必ず加圧用ガス容器を取り外してください。(加圧用ガス容器をつけたまま作業をすると、事故につながるおそれがありますから十分注意してください。)

7 ホース

A 点検方法

目視及び手で締め付けて確認すること。

B 判定方法

- a 変形・損傷・老朽化などがなく、内部に詰まりがないこと。
- b 容器に緊結されていること。



※1 消火薬剤の漏れや固化による詰まりのあるものは内部点検を行い、消火薬剤量を点検すること。
 ※2 ホース取付ネジのゆるみは、締め直すこと。

◆チェックのポイント

- ①特にホース内部（ブレード）に達するキズやひび割れがないか、また、ゴム質が著しく変化していないかをチェックしてください。
- ②変形やつぶれなどで復元力がなくなっていないかをチェックしてください。

9 指示圧力計

A 点検方法

目視によって確認する。

B 判定方法

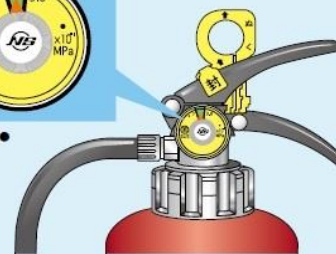
- a 変形・損傷などがなく、内部に詰まりがないこと。
- b 指示圧力値が緑色範囲にあること。

※1 指針が緑色範囲の下限より下がっているものは、消火薬剤量を点検すること。
 ※2 指示圧力値が緑色範囲外の場合は、指示圧力計の作動を点検すること。

蓄圧式消火器の指示圧力計



●指示圧力計●



◆チェックのポイント

内部に消火薬剤が漏れていないかをチェックしてください。